

三日月 大造

対談日:平成29年7月7日(金)
場 所:滋賀県公館

全国滋賀県人会連合会 会長

上野 幸夫

全国滋賀県人会連合会 副会長

蔭山 孝夫

全滋連の現状



司会・蔭山 今日が多忙の中、三日月知事に時間を割いていただき、ありがとうございます。早速本題にはいつていき

たいと思います。

滋賀県人会は、現在国内55か所、海外15か所で活動しています。全国そして世界に活動を広げる滋賀県ならではの県人会ですから、なお一層県人会を発展させねば、という思いです。そのためにも、滋賀県についての情報発信を充実させていきたいと考えています。また今号から会報誌のタイトルも「おうみの風」と改めました。題字は、延暦寺の光永阿闍梨さんに揮毫していただきました。

今回から滋賀県の情報をたくさん入れようということで現在編集しています。先日肉センターの望月氏に会って、「是非近江牛の宣伝を」という話をしましたし、ほかに、滋賀県内の宿泊とか物産の情報や広告などを発信していこうと考えています。また、今年の10月には、近江商人ゆかりの東京・日本橋に、滋賀の新しい情報発信

拠点である「ここ滋賀」がオープンしますが、県人会としても大いに期待しているところではあります。それではまず、知事にお聞きします。知事就任以来、全国各地の県人会の方々に会われたと聞いていますが、県人会にはどのような感想をお持ちですか。

三日月知事

この度ご就任された上野会長には、全国、そして世界に誇るべき滋賀県人会をなお一層発展させていたどうか、よろしく願っています。また、この滋賀県人会をつくり、守り、育ててきてくださった、すべての県人会の諸先輩方に心から感謝申し上げます。

私も、これまでの人生を振り返ると、要所所で県人会の皆様と関わりがありました。故郷を離れて東京の湖国寮に学ぶ時、J R 西日本に就職し広島に赴任した時、その後政治家となり全国各地で政治活動をする時、その都度県人会の皆様にお世話になってきま



した。今、こうして知事を務める中で、全国そして世界の滋賀県人会の皆様方にお会いし、「皆さんの故郷である滋賀県は、今こんな状態ですよ。このようになことに頑張っていますので、是非お力添えください。いつもありがとうございます。」と、お伝えしております。今年、徳島滋賀県人会と沖繩滋賀県人会の皆様にお会いしました。明日は、名古屋滋賀県人会の創立40周年記念大会に出席いたします。訪問する先々で、故郷を思い、近江の心を次の世代の方に伝承していただいていること、また海外でも県人会を結成し、「何か滋賀のためにできることはないか」と熱い思いで活動していただいていること、そうした方が各地にたくさんいらっしゃることを、とても心強く思っております。これからはこうした方々との繋がりや故郷・滋賀と全国・世界の県人会の皆様方との繋がりを大切にしていきたいと思っています。

司会・蔭山

ありがとうございます。ここで上野会長から就任の抱負をお願いします。

上野会長

県庁職員として25年、県会議員として24年、合計49年、県庁舎でお世話になりました。とりわけ印象深いのはびわこ国体に関わったことです。この時に国体募金を全国の知事や県人会にもお願いしまして、9億円を募りました。大変な額でした。そこで100万円単位の寄付をいただいた方にはお礼に歩きました。その時の印象で忘れ

られないのは岩手で小さい旅館をやっている、旧の湖東町、私の町の小さな集落の人が「びわこ国体」だからといって、貴重な財を寄付していただきました。その時、滋賀県人会、滋賀県の血を持っていることを言われていた、その印象が忘れられません。小さな滋賀県の「びわこ国体」が大成したと言われました。非常にうれしかったですし、10億円もの「国体募金」を北海道から九州まで、東北から四国、山陰までお礼行脚をしました。その中に湖東町の方がいらつしやうって県人会に対する思いというか、単に国体というより滋賀県に生まれたことを誇りにして、体に染みついたというか、そんな思いでおられました。それ以来滋賀県人会という組織が素晴らしい歴史をもつて、素晴らしい中身をもって今日があることを痛切に感じております。滋賀県の生まれを腹に収めて、函館の近江商人にも素晴らしい歴史があります。そんな意識の中で、今年4月から滋賀

司会・蔭山

海外もそうですが、国内の県人会組織が高齢化していますので、友人・知人を通じて若い人を県人会に勧誘していこうと考えています。この作業は大変な作業ですが、やっていかねばならない仕事だと思っております。

県人会による滋賀県の応援

司会・蔭山

首都圏情報発信拠点「ここ滋賀」が10月29日にオープンするに当たり、特に関東圏の協力が不可欠です。積極的に活動していきたい。例えば全滋連会長名で「お願い」を出すとか、事務局がより県庁に近いところに移りましたので、さらに県とも連携していきたいと思えます。知事の方から何をやっていけばいいか、提案なり考えがありました。



鼎談 「全滋連」の現状と今後の運営





永源寺の紅葉



近江八幡の水郷



三日月知事

「ここ滋賀」をはじめ、県の取り組みを応援しようというお気持ちを感じます。これまでも、移り住んだ地域のため、ふるさと滋賀のため、両面にわたってご尽力いただいています。昨年岩手国体に行った折、東北地方に清み酒、透明なお酒の造り方を伝えたのは近江商人だったということ、岩手滋賀県人会の方が教えてくださいました。

また、先週も出張で沖繩を訪れましたが、沖繩滋賀県人会は、太平洋戦争で沖繩に出征して亡くなられた戦友を弔うため、郷里に帰らず、沖繩に住みついた中村さんと石崎さんが礎になったそうです。滋賀県から来られる遺族の方に、「あの方はどこで亡くなられた、この方はどこで亡くなられた」と、ご案内されたそうで、現在はその中村さんの息子さん、沖繩滋賀県人会の会長としておられます。特に私が感動したのは、その世代だけではなく、次の世代、滋賀県出身で沖繩民謡、八重山民謡をされている方がいて、その方を滋賀県人会が応援しておられることです。今だけ、また自分のためだけではない、この取組を是非皆さんに知って



▲ピワイチに挑戦する三日月知事

いただきたいと思っています。

また、昨年は、滋賀を代表するプロバスケットボールチームである、滋賀レイクスターズが全国各地を転戦する中で、近くでゲームが行われる際には、ご声援くださいと、全国の県人会の皆様にも手紙も書きました。今年の10月に、近江商人ゆかりの東京・日本橋にオープンする「ここ滋賀」についても県人会の皆さんにぜひ応援いただき、一緒にPRしていきたい。八幡商業高校の生徒さんたちが近江商人の「産物回し」を体験する実習では、行く先々で県人会の皆様にお世話になっていきます。全滋連の皆様には、若者の活動や仕事、チャレンジを応援してもらえよう、な、「つなぎ役」をお願いしたい。県の各部署とも連携をさせてもらいたい、と思います。

司会・蔭山 こうしたことを県人会で応援することを考えています。

三日月知事

今年、愛媛で国体があります。インターハイは南東北で開催されます。湖国滋賀から選手団が行きますから、ぜひ応援してください。

司会・蔭山 佐賀の県人会長（代理）が修学旅行に滋賀に行くように働きかけたかどうか、と提案していました。そのためにも「おうみの風」をしつかりした滋賀の情報誌にしていかなければなりません。

三日月知事 修学旅行をはじめとする教育旅行をきっかけとして、琵琶湖に出会い、比叡山に出会った、だから滋賀県が好きになった、という人もたくさんおられます。そういう人を増やしていくためにも、ぜひご協力をお願いしたいと思っています。

司会・蔭山 全滋連は大切な媒体だと思っています。滋賀県の物産・観光を宣伝するような「会報誌」を出していきたい。

琵琶湖周航の歌100周年と日本遺産

司会・蔭山 今年は「琵琶湖周航の歌」100周年にあたり、この歌の意味を知るとともに、「滋賀県」の宣伝として、大きな「財産」だと思っています。

「江州音頭」とともに、滋賀県の歌として普及する機会になれば、と思います。

「ピワイチ」で琵琶湖を一周するとともに、「琵琶湖周航の歌」の歌碑も訪ねていく、ということ意義がある

上野会長

6月24日の「琵琶湖周航の歌」100周年記念式典に出席し、この歌が心から自然に出てくる歌として100年も歌い継がれて、滋賀県のものだけではなく、全国に行きわたっていることに感動しました。

三日月知事

琵琶湖周航の歌は、作詞が小口太郎、作曲が吉田千秋で、二人の出身は長野県と新潟県です。

上野会長

県人会でも、新潟県人会と長野県人会は琵琶湖周航の歌が縁で親しくされています。

三日月知事

この琵琶湖周航の歌をわかりやすく解説していただいたら、「こんな歌だったんだ」と全国で再評価していただけますよね。

上野会長

こうした歌だけでなく、県人会は、滋賀県の血で繋がっている、人脈血縁関係、言葉に出不せなような「繋がり」があります。そういう関係を大切に、という組織でもあります。

司会・蔭山

また県内についても、今後、市町長を回って、全滋連としてどう協力関係を築いていくかを考えていきたいと思っています。

三日月知事

私は今大津に住んでおり、滋



賀県内でも山のほうの暮らしや県の北部地域の暮らしを知らない、知事就任以来、1週間程度の短期居住生活を重ねています。これまで6回行いましたが、今度は7月中旬に東近江市奥永源寺に入ります。私は今、「琵琶湖新時代」をつくらうと発信しているのですが、琵琶湖を守り、活かすために、山、里、農業のつながりの中で、林業の大切さなどを勉強していこうと思っています。

司会・蔭山

そうした県の情報を補完する形で、県や市町の情報を採り入れ、反映していきたいと考えています。

三日月知事

滋賀県では、「琵琶湖とその水辺景観―祈りと暮らしの水遺産」が日本遺産として認定を受けています。認定してもらっただけでなく、そこに多くの方に訪れていただくこと、「日本遺産 滋賀・びわ湖 水の文化ぐるっと博」(15ページ参照)をこの10月から来年3月まで県内一円で開催します。県内の日本遺産をはじめ滋賀・びわ湖の魅力に触れて楽しむことができる街歩きツアーや、ひと味違う体験プログラム



▲最高級特A評価を受けた「みずかがみ」

近江米「みずかがみ」近江牛、近江の地酒、近江茶、近江の野菜

三日月知事 県産品では、近江米「みずかがみ」が、平成27年度、28年度と2年連続で「特A」の評価をいただきました。農家の方が大切に育てていただいている「みずかがみ」は、どんな需要が上がってきています。他にも、近江牛、近江茶、近江の野菜など、農家の皆様的大事にそだててくださっている滋賀県産のものをしっかりと「ブランド化」していきたいと思いま

司会・蔭山 今回の会報誌に期待してください。



彦根城



中山道程井宿 (十五水・地蔵川)

す。
また、県内に30を超える蔵元がある「近江の地酒」ですが、どれも特徴的な味で、蔵元が丹精込めて造っておられます。甘いもの、辛いもの、一つの県でこんなに個性あふれる味がそろっているのも珍しいと思います。近江の地酒を振興・普及する条例もできましたので、積極的に取り組んでまいります。

上野会長 知事がこだわっていたら、「環境こだわり米」をもっと広報していきたい。全国的に見ても、米の現場は厳しい現状です。1万5千円どころか、値があがらない、全国的に750万から800万トン、いずれ将来600万トンの時代が来ます。滋賀県が全国的に先駆けて、農業政策のお手本になれば、と願っています。

全国の県人会の皆さんへ メッセージ

司会・蔭山 先程も申し上げました「江州音頭」ですが、先日、八日市（聖徳祭り）で「江州音頭」を広めたいということで、催しにいたしました。京都では京都滋賀県人会が一生懸命にやっています。京都でどうして江州音頭なのかと思うくらいです。今後、全国各地で江州音頭が広がるよう、県人会としてももっと広報していきたいと思っています。

三日月知事 全国各地、そして世界の滋賀県人会の皆様には、「久しぶりにふる

さと滋賀に帰ってきませんか。」と呼びかけさせていただきたいと思っています。その時にはぜひ県庁にもお立ち寄りください。

司会・蔭山 そのためにも、「ふる里県人会」を充実させていかねば、と思っています。

上野会長 山本浜田市長（島根県県人会長）からも是非全滋連をしっかりとやっていただきたい、と電話がありました。旧甲良町の出身とのこと。帰ってきたら是非寄ってください、と言っておきました。

長年、県庁にいらして、県庁を取り巻く諸団体は、決して行政を組織の中心に置くのではなく、しっかりと県庁という行政に組織の理解を得るような組織にしておく。それが大事な姿勢であろうと思います。県庁のいうことを聞かねばならないということではなく、県庁という大きな組織の中で連合会がしっかりと組織として存在感を示すことだと思っています。今回、大変なポストに就かせていただきましたが、県とは大事なお付き合いをさせていただきたい。今後ともよろしくお願いいたします。

司会・蔭山 今日は多忙の中、ありがとうございました。
※写真提供：滋賀県

三日月大造 経歴

昭和46年 5月生まれ
平成2年 滋賀県立膳所高等学校卒業
平成6年 一橋大学経済学部卒業
平成6年 西日本旅客鉄道株式会社(元西日本入社)
平成14年 (元)松下政経塾入塾(第23期生)
平成15年 衆議院議員初当選(以降4期連続当選)
平成21年 国土交通大臣政務官に就任
平成22年 国土交通副大臣に就任
平成26年 滋賀県知事就任

上野幸夫 経歴

昭和15年 東近江市(旧湖東町)小八木町で生まれる
昭和36年 滋賀県庁に奉職
昭和59年 武村 稲葉西知事の秘書を務める
昭和62年 滋賀県議会議員に初当選
平成9年 滋賀県議会副議長に就任
平成20年 滋賀県議会議長に就任

現職

愛知川沿岸土地改良区 理事長
滋賀県農政連盟 会長
滋賀県ゴルフ連盟 理事長

蔭山孝夫 経歴

昭和15年 滋賀県生まれ
昭和38年 同志社大学経済学部卒
昭和38年 日本勧業証券入社
昭和46年 滋賀建機創業
平成29年 滋賀建機グループ取締役会長

現職

滋賀県中小企業家同友会代表理事
滋賀経済同友会常任幹事
ふるさと県人会会長